

目次

写真図版（和田家資料「内留」 弘化三年分 全五巻）
発行によせて
和田家資料「内留」

写真図版・解説

正月

二十九日 瑤台院様御四七日御法事（巻一—3）

二月

八日 前髪松植え方（巻一—11）

十五日 与助草履下げ方（巻一—15）

二十日 瑤台院様御四十九日御法事（巻一—19）

二十九日 お雛様飾り付け（巻一—31）

三月

一日 貞力様風流明神へ御日参（巻二—2）

三日 上巳御祝儀（巻二—4）

十七日 斗蔵観音開帳（巻二—14）

二十六日 お從様御誕生日（巻二—23）

晦日 騎射御覧（巻二—28）

四月

十日 瑤台院様御百ヶ日御法事（巻二—35）

十四日 蕨取り（巻二—41）

二十一日 味噌煮方（巻二—46）

二十五日 天神宮御祭礼（巻二—49）

五月

一日 殿様御上府（巻二—56）

二日 味噌合わせ方（巻二—59）

五日 端午の御祝儀（巻二—62）

六日 殿様御下着（巻二—66）
御蚊屋御釣り初め（巻二—72）
二十六日 蛭狩り（巻二—79）

閏五月

一日 夏越の御祈禱（巻二—82）

三日 殿様鶴繩へ、御子様方蛭狩り（巻二—83）

八日 新御座敷御普請御出来（巻三—2）

十五日 お朝様御仏参のため角田へ（巻三—9）

十八日 富田老岐様御遠慮の御達（巻三—14）

二十日 筍漬け方（巻三—17）

二十六日 お朝様奥様御同様の御取扱（巻三—21）

六月

一日 蚤追い、氷室御祝儀（巻三—26）

四日 藻巻（巻三—31）

六日 右膳様少々御吐乳（巻三—34）

八日 右膳様御引き付け（巻三—35）

九日 右膳様病氣平癒のため御代参（巻三—36）

十一日 胎蔵院、羽山権現で夜籠り御祈禱（巻三—39）

十四日 右膳様御死去（巻三—42）

十五日 御臺入れ（巻三—43）

十六日 御臺御棺入れ（巻三—46）

十八日 御出棺（巻三—48）

二十四日 凡山様御七回忌御法事（巻三—54）

二十八日 大洪水（巻三—58）

晦日 名越の祓（巻三—60）

七月

七日 七夕の御祝儀（巻三—67）

九日 御館中御建立の観世音御祭礼（巻三—70）

十二日 老女、惣女中へ越盆の御祝儀（巻三—73）

十三日 お盆（巻三—76）

八月 晦日 鴻飛来、殿様御出野（巻三—90）

八月

一日 八朔の御祝儀（巻三—92）

三日 石光院様御四十九日御法事（巻三—94）

四日 貞力様御誕生日（巻三—95）

十五日 お朝様御帰（巻三—96）

御役替え（巻四—3）

栗拾い、茸狩り（巻四—8）

九月 二十三日 涌谷・小野御在所へ瑤台院様御遺物進ぜらる（巻四—11）

四日 老女幾田、老年に付御免（巻四—16）

五日 殿様、鮭地引き御覧（巻四—18）

九日 重陽の御祝儀（巻四—21）

十三日 明月（巻四—24）

十九日 御氏神御祭礼（巻四—29）

二十三日 角田門大橋掛替御普請御出来（巻四—33）

十月 四日 御能（巻四—41）

十一日 玄猪の御祝儀（巻四—47）

十一月 二日 瑤台院様御遺物下さる（巻五—2）

十五日 御油締め御祝儀（巻五—9）

二十二日 貞力様、御髪置きの御祝儀（巻五—13）

晦日 瑤台院様御一周忌御法事（巻五—19）

十二月 一日 水飜（巻五—21）

十八日 節分（巻五—31）

十九日 御煤掃き（巻五—32）

二十六日 殿様御上府（巻五—37）

二十九日 歳暮の御祝儀（巻五—46）

二十九日

語句解説

人物解説

引用参考文献

凡例

一、本書は、和田家資料「内留」 弘化三年分を解説したものである。

一、和田家資料「内留」 弘化三年分は、全五巻からなり、総丁数は、三百二十五丁。全巻ほぼ同じ大きさで縦25.5cm×横16.6cm、全紙数三つ折り・四つ目綴。一部、裏面を再利用したものがある。各巻の丁数は次の通り。

巻一「弘化三年正月廿五日より二月廿九日迄」 三十二丁

巻二「弘化三年三月朔日より閏五月六日迄」 八十五丁

巻三「弘化三年閏五月七日より八月十四日迄」 百五丁

巻四「弘化三年八月十五日より十月廿七日迄」 五十七丁

巻五「弘化三年十月廿八日より十二月廿九日迄」 四十六丁（十月廿八日から十月晦日まで欠落）

所載は、角田市郷土資料館である。

一、文書の解説は、上段（写真図版・中段（翻刻、読み下し）・下段（語句解説）で構成した。下段（語句解説）で、項目のみ記載されているものは、調査中のものである。

一、読み易くするため、適宜読点・並列点・傍点を加えた。台頭・平出・欠字は、原文に合わせた。

一、翻刻は、出来るだけ原文で使用されている字体を用いた。読み下しは、常用の字体、仮名づかいを用いた。

一、助詞の「に」「は」「を」「と」「へ」「に」「で」「を」と「并」は、小さい文字にした。

一、漢字の繰り返し記号「」は「同」、「」は「より」、変体仮名は、常用の仮名を用いた。

一、本文の行間に書き加えられた文字は、本文に組み込んだ。本文余白に追記された部分は「余白（上）」「余白（下）」などと記し、条や頁の終わりに記した。本文中に追記されたと思われる部分には、「追記」と記した。

一、文章の通じない文字や間違いと思われる文字には（ママ）、疑問の箇所には（カ）と記した。

一、付け加えた方が文章が整うと思われる語句については、括弧書きにして付け加えた。

一、判読できなかった文字や欠損部分は、字数が明確な場合、文字数分の□で、不明な場合は、□と記した。文字が推定される場合は、□の中に文字を記した。

一、「」は、筆者が文字を見せ消し（もとの文字が読めるように訂正した消し方）にしたことを表す。

一、重ね書きで訂正された文字は、後に書かれた文字で判読した。

一、年間を通して主な出来事を目次としてまとめた。

一、主な語句解説・人物解説は、巻末にまとめて記載した。

一、引用参考文献は、巻末にまとめて記載した。